

～ 宿泊施設でマニュアルを作成する理由 ～

○地震・津波からの、外国人旅行者を含む観光客の安全確保

お客様・従業員の安全 = 安全確保は施設の責任・不備があれば訴訟も

観光客は災害弱者 = 地域の危険度や、地理に不案内・年齢もまちまち

一分一秒が生死の分かれ目 = いざという時、的確・迅速な対応が必要



マニュアルづくりによる防災対策

話し合い

気づき

準備・点検

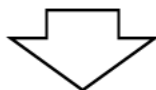
体制

教育・訓練

取るべき対策や行動の明確化

対策や行動の重複や欠落の防止

※訓練でできないことは本番でもできません！



いざという場合に適格かつ迅速な対応を実施



外国人旅行者を含む観光客の安全確保

地震・津波による犠牲者の最小化

安全安心な観光地のアピール・集客効果

マニュアルの構成

○ マニュアルの作成にあたって

- 1 地震・津波への理解
 - ・ 想定される地震の震度や、液状化のリスク等の把握
 - ・ 想定される浸水深・到達時間等の把握
- 2 日頃の備え
 - ・ 体制づくりについて
 - ・ 必要な機械・器具の準備・点検について
 - ・ 施設内での安全確保について
 - ・ 避難場所・避難経路の想定について
 - ・ 避難時の安全確保について
- 3 津波が発生したときの備え
 - ・ 津波発生時の行動マニュアル
- 4 教育・訓練の実施
 - ・ 外国人旅行者への対応手順について

○ マニュアルの様式

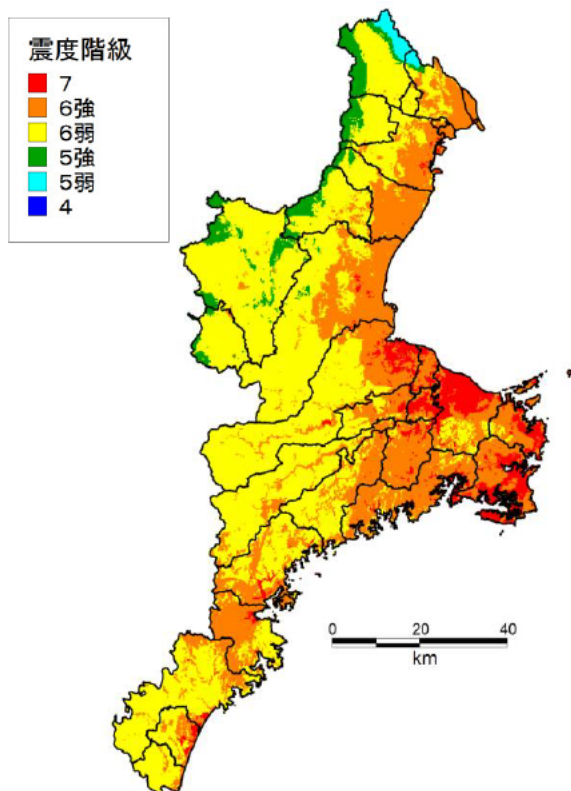
- 1 想定される震度及び浸水深・到達時間等【様式1】
- 2 防災体制表【様式2】
- 3 必要な機械器具のチェックリスト【様式3】
- 4 施設内での安全確保のチェックリスト【様式4】
- 5 避難場所・避難経路図【様式5】
- 6 避難時の安全確保のチェックリスト【様式6】
- 7 津波発生時の行動マニュアル【様式7の1】【様式7の2】
- 8 外国人旅行者への対応手順【様式8】
- 9 教育・訓練実施のチェックリスト【様式9】

マニュアルの作成にあたって

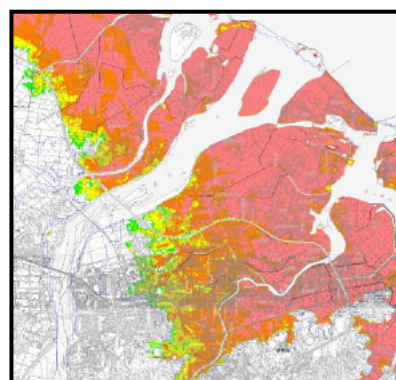
1 地震・津波への理解

○想定される地震の震度や津波の浸水深・浸水開始時間の把握が前提

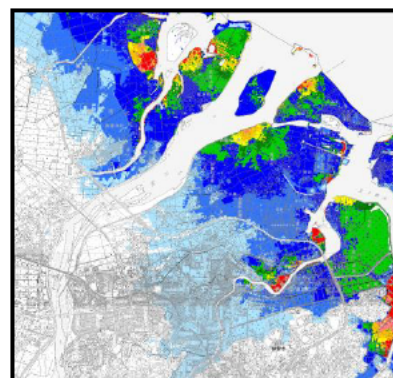
- ・ 南海トラフ地震の発生を想定した、揺れの大きさや、液状化の可能性について、把握しておく必要があります。
- ・ それと同時に、どの程度の津波が、どの程度の時間で押し寄せてくるのか、いつまでに避難が必要かを把握しておかなければなりません。
- ・ これらの想定から考えられる被害を前提として、お客様の避難誘導などの計画を事前に練っておくことが大切です。
- ・ 南海トラフ地震が発生した場合に、県内の市町で想定されている地震の震度や液状化のリスク、津波の浸水深や、避難行動に支障をきたす浸水 30cm 到達時間は、県のホームページや市町のハザードマップで確認してください。（様式 1 に確認方法が記載されています）



南海トラフ地震発生時の揺れの大きさ



津波浸水予測図



津波浸水深 30cm 到達時間分布図

（平成 25 年度地震被害想定調査より）

【備考】あらゆる可能性を科学的見地から考慮して、起こりうる最大クラスの南海トラフ地震の想定です。発生する可能性は低いものですが、命を守るためには、この地震・津波に備えることが重要です。

2 日頃の備え

○なぜ、日頃の備えが必要か

- ・ 津波対策の基本は、一刻も早く安全な場所に避難することです。
- ・ 限られた時間で、的確・迅速に避難するためには、日頃の備えと訓練が重要です。

1 体制づくり

- ・ いざという場合の、役割分担をあらかじめ決めておきましょう。
- ・ 基本的な体制は、統括係・通報連絡係・安否確認係・避難誘導係・救護係です。
- ・ 昼間・夜間・フロア別など、いくつかのパターン別に決めておくことが有効です。

【参考】 様式2 防災体制表

2 必要な機械・器具の準備・点検

- ・ いざという場合に必要な機械・器具を、リストアップし、準備しておきましょう。
- ・ いざという場合に、すぐに使用できる場所に保管することも重要です。
- ・ 使用方法や使用可能かどうかを、訓練などで定期的に点検することも必要です。

【参考】 様式3 必要な機械・器具のチェックリスト

3 施設の安全確保

- ・ けがをすると、その後の避難や、避難誘導に、大きなハンディとなります。
- ・ けがをしないよう、施設内外のリスクをできるだけ無くしておきましょう。
- ・ また、避難経路となる通路・階段等の安全確保も重要です。

【参考】 様式4 施設内での安全確保のチェックリスト

4 避難場所・避難経路の想定

- ・ 津波発生時の避難場所と、避難場所への避難経路を想定しておきましょう。
- ・ また、避難誘導の起点となる施設内の集合場所を想定しておきましょう。
- ・ 施設によっては、避難場所を建物内の高層階にすることも考えられます。
- ・ 地域によっては、複数の避難場所や避難経路を想定しておくことも必要です。

【参考】 様式5 避難場所・避難経路図

5 避難時の安全確保について

- ・ 避難場所への避難経路に危険な箇所がないか、確認をしておきましょう。
- ・ 管理者等と事前に話し合い、場合によっては、避難経路の変更も必要です。

【参考】 様式6 避難時の安全確保のチェックリスト

3 津波が発生した時の備え

○ 様々なケースを想定した備えが必要

- ・ 津波対策の基本は、一刻も早く安全な場所に避難することです。
- ・ より短時間で判断し、的確な行動をとるためには、日頃から様々なケースを想定し、対応を検討して、できるだけ想定外を少なくしておくことが必要です。
- ・ 多くの課題が同時に発生した場合や、必要な人員がそろわない場合に備えて、各業務の優先順位を決めておくことも必要です。
- ・ また、津波から逃げ遅れることのないように、津波の到達時間を踏まえて、各業務を打ち切る時間（避難開始時間）を決めておくことが非常に重要です。
- ・ 短時間で津波が到達しうる地域では、情報収集を後回しにして、直ちに避難誘導を開始するなど、一刻も早く安全な場所に避難することが最優先となります。

【参考】 様式7-1. 7-2 津波発生時の行動マニュアル

4 教育・訓練の実施

○ いざという場合の確実な対応に向けて

- ・ いざという場合に確実に対応するためには、「地震・津波発生に伴う危険性」や、「観光客が災害弱者であること」、「お客様の安全確保は施設の責務であること」などを、従業員一人ひとりが理解しておくことが必要です。
- ・ また、外国人旅行者への対応も含めて、事前に十分な教育・訓練を繰り返すことにより、いざという場合に、的確かつ迅速な対応を行うことが可能となります。
- ・ さらに、十分な教育・訓練の実施は、マニュアルの問題点や、想定していなかった課題への気づきにもつながります。これらの解決策を検討していくことで、いざという場合に、より確実な対応が可能となります。

【参考】 様式8 外国人旅行者への対応手順

様式9 教育・訓練実施のチェックリスト

マニュアルの様式

- ・ この様式は、各施設等がマニュアルを作成する際の参考資料として作成したものです。
- ・ 「マニュアルの作成にあたって」で説明してきた内容や、この様式を参考に、各事業所が、それぞれの特性や事情に沿った「地震・津波対策マニュアル」を作成し、いざという場合に備えてください。
- ・ それぞれの様式は、各事業所において、対策の達成度を確認するためのチェックリストとして活用したり、目につく場所に貼って共有したり、従業員の教育資料として活用したりすることもできます。
- ・ 消防法に基づいて消防計画を定めている施設や、すでに地震・津波対策のためのマニュアルを整備している施設などでは、それらの補足や拡充のために役立ちそうな様式を選んで、活用いただくこともできます。
- ・ この様式で、地震・津波発生時のすべての対策がカバーできる訳ではありません。施設等ごとに、実際に地震・津波が発生したときのことを想定し、他に備えておくべきことがないか検討しておきましょう。（例：体の不自由な方など、徒歩での避難が困難な方の支援の方法や、近隣の宿泊施設との連携について。施設等が高台にある場合は、浸水する地域からの避難者の受け入れについても、検討しておくといいでしょう。）